



リンドウ黒斑病の発生生態と重点防除時期

【1 成果の概要】

リンドウ黒斑病の発生時期は、従来は8月下旬以降でしたが、近年は7月からみられるなど発生様相が変化しています。

- (1) 発生生態：感染は入梅期（7月上旬）から始まり、初発生はフラワーネットに隣接した畦外側の中位葉で見られます。着蕾期（8月）になると、上位葉に発生します（写真、図1、2）。
- (2) 重点防除時期：例年発生が多い圃場では、初期発生を抑えるため6月下旬にピラジフルミド水和剤（商品名：パレード 20フロアブル）を散布すると効果的に防除できます（表1、図2）。



写真 黒斑病の病徴（7月、初発時）

フラワーネットに接触した葉で初発生。

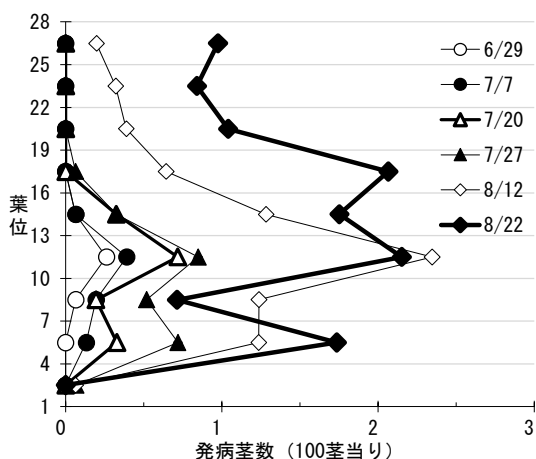


図1 黒斑病の葉位別の発生推移（八幡平市）

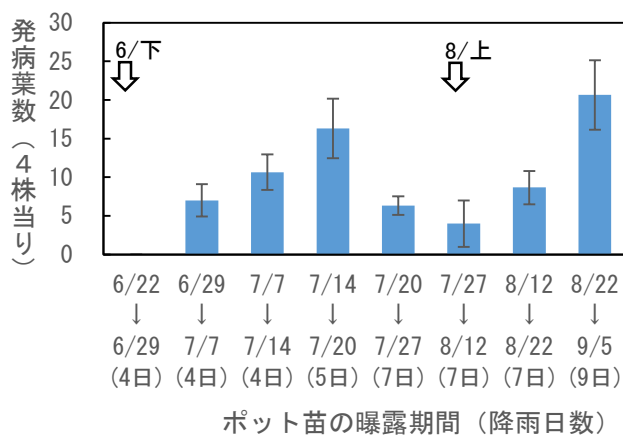
7月は中位葉（フラワーネットのある葉位付近）で発生。
8月は中位～上位葉で発生。

表1 パレード 20フロアブルの散布時期と防除効果（R4年）

区	散布日（月/日）		発病茎率（％）		防除効果 （対対照）
	6月下旬 （6/22）	8月上旬 （8/2）	7/20	8/22	
1	パレード	パレード	0.7	8.9	74.6
2	パレード	△	0.4	15.1	57.1
3	△	パレード	2.4	30.5	13.4
対照	△	△	4.7	30.7	

品種：安代の秋（5年株）、1区 3m × 2m（2畦）、3連制
△：アフエットFL。試験散布前後は農家慣行防除

（摘要）パレードの6月下旬散布（1区、2区）は初期発生を抑え、8月の発病を抑制（2区）。一方、8月上旬散布のみ（3区）では効果が不十分。



ポット苗の曝露期間（降雨日数）

図2 曝露試験による時期別感染量の把握（R4年）

（摘要）対照区（表1）にポット苗を定期的に配置した曝露試験。感染量は、7月上・中旬と8月中・下旬が多いので、それぞれ6月下旬と8月上旬散布は感染防止に有効であったと考えられる。

【2 留意事項】

本病は草勢の弱い黄化した株で発生しやすい傾向です。夏期の草勢を確保するため、降雨後に通路が滞水しないよう排水対策を併せて講じて下さい。